

『好色五人女』 諸本調査報告

——二都版・単独版の先後をめぐって——

宮澤 照 恵

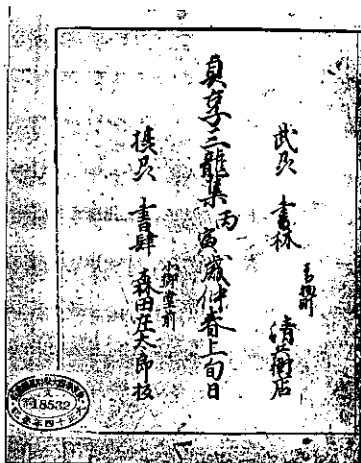
一

本稿は、『好色五人女』の書誌調査を通じて二都版と単独版の出版先後問題を再検討し、併せて版木の伸縮の様相や取り合わせ本の可能性を報告するものである。

二

『好色五人女』の書誌調査には、既に天理図書館編『西鶴』、青山忠一氏による『近世文学資料類従西鶴編 4 好色五人女』解題(以下青山氏解題とする)、及び石川了氏による『西鶴選集 好色五人女』解題(以下石川氏解題とする)があり、詳細な報告が備わっている。諸氏の報告と重複する部分があるが、始めに『好色五人女』諸本について、以下の論述に関わる特徴並びに新たに気付いた点を簡単に記しておく。

(一)



(霞亭本刊記)

東京大学総合図書館蔵霞亭文庫本

改装紺色無地表紙。五巻二冊。巻一16丁表、18丁表、同裏、巻四1丁表、同裏、20丁表、同裏は愛鶴書院本。第二冊目後表紙見返し識語(昭和五年三月十四日、土井重義記)により、全巻の補修は昭和五年三月に終了したこと、霞亭文庫からの引継ぎの時既に二冊に改装されていたことなどが知られる。

大阪府立中之島図書館蔵本

改装黒色無地表紙。巻五13丁、16丁の各一部分、17丁裏、18丁表、同裏の全部が愛鶴書院本。未紹介本だが、昭和五十二年版「弘文荘目録」に掲載されたもの。

平井隆太郎氏蔵本(未見。青山氏解題による)。

昆沙門格子巻龍紋朽葉色原表紙、巻龍紋の位置が国会本とは逆。中央上部原題簽。刊記を含む巻五18丁表、同裏が手書き。

〈单独版〉

大東急記念文庫蔵本

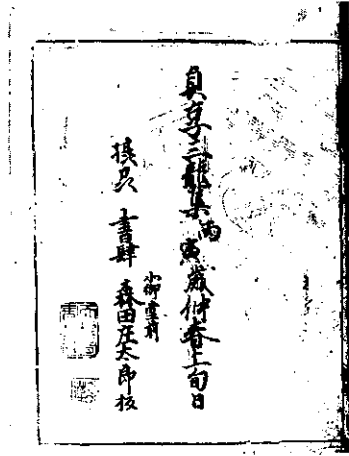
茶色無地表紙(巻四・五の後表紙はくすんだ小豆色)。中央上部原題簽(巻一〜四)。取り合わせ本(後述)。

早稲田大学総合図書館蔵甲本(へ13 1763)

毘沙門格子巻龍紋白色原表紙。巻一・巻三・巻五、合本一冊

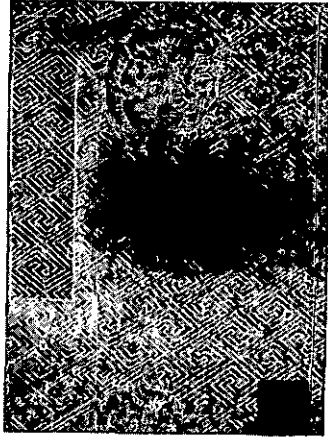
早稲田大学総合図書館蔵乙本(へ13 4265)

毘沙門格子巻龍紋薄縹色原表紙(汚損甚し)。巻四・巻五、二冊。中央上部に題簽跡あり。巻四後表紙見返しに「享保十三申曆／重之」の墨書。

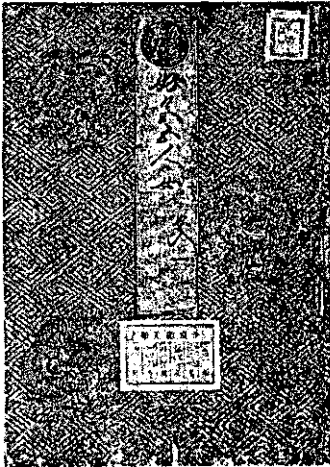


(天理本刊記)

『好色五人女』諸本調査報告



天理本表紙



国会本表紙



早稲田甲本表紙

(四)

天理図書館蔵本

昆沙門格子巻龍紋朽葉色原表紙(表の巻龍紋が大きい。図版参照)。巻四を除き左肩に題簽跡あり。巻一
 〳四と巻五の取り合わせ本で、後者は前者よりもやや摺りが良い(後述)。

国立国会図書館蔵本

昆沙門格子巻龍紋朽葉色原表紙。中央上部原題簽(巻一〳三)、(巻四・五は同位置に題簽跡あり)。

以上、二都版と明言できるのは霞亭文庫本のみであるの⁽¹⁾に対し、単独版は五本以上確認できるが、これらは全て同版本である。

さて、本稿の中心課題である二都版と単独版の出版先後に関しては、これまで概略次のように扱われてきた。始め、二都版の江戸清兵衛店を入木追加とみる滝田貞治氏・野間光辰氏の単独版初版説が行われていたが、昭和四十年に天理図書館編『西鶴』が「版木の摩滅の様子など」により二都版先行説を提示すると、以後はこれに従う論考が続いた。その後、青山忠一氏⁽²⁾を始めとして、市古夏生氏・江本裕氏・西島孜哉氏らが判断を保留する立場を取るに至った。

石川氏は、平成七年五月に霞亭本・大東急本・国会本の欠損箇所を詳細に検討して十二箇所の具体例を提示し、次のような結論を出された⁽³⁾。

巻四までは大東急の方が早い摺りであり、最終丁裏に刊記を有する巻五のみは霞亭文庫本の方が早い。つまりは二都版が初印本で、単独版は万屋清兵衛を削った再版本ということになり、併せて霞亭文庫本は、少なくとも巻四までと巻五の取り合わせ本であることがわかる。

即ち氏の綿密な検証を得て、「霞亭本は取り合わせ本、「二都版初印」ということでこの問題は終止符を打つたとも言えるのである。しかし、版木欠損の調査のみによる推論にはやはり限界があると思われる。次節では、石川氏とは異なる方法——框郭寸法の計測——を通して版面調査を行い、必要に応じて欠損状況に触れ

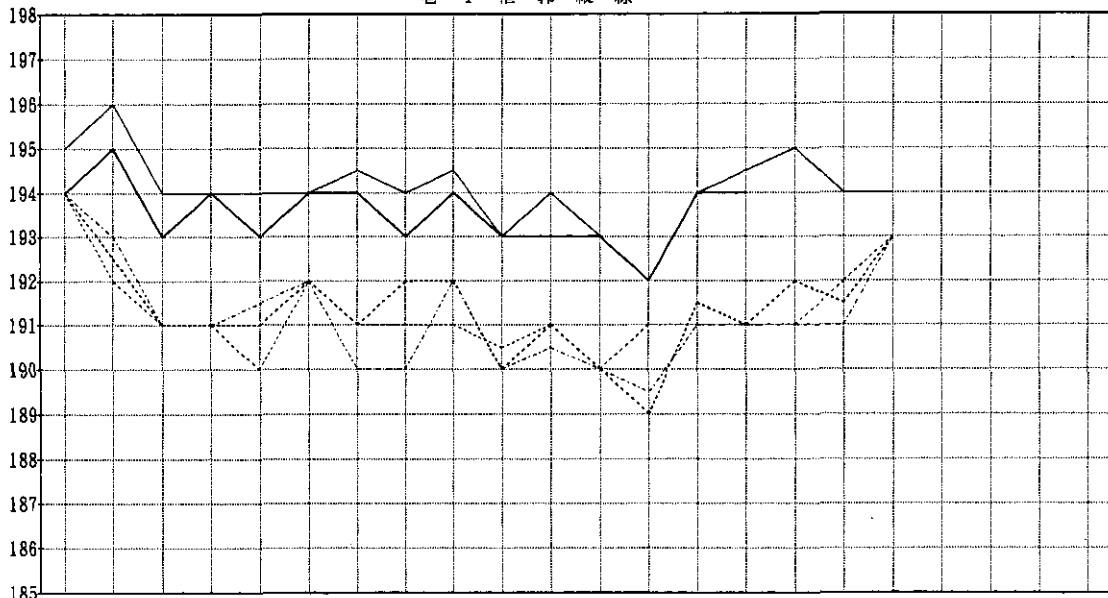
ること、二都版と単独版の先後問題を再検討したい。

(六)

三

次に掲げる十面のグラフは、諸本各丁の框郭寸法を各巻ごとに框郭縦線・框郭横線の順に示したもので、霞亭本・大東急本・天理本・国会本を取り上げ、参考として早大甲本を加えてある。各グラフ共に横軸に丁数、縦軸に框郭の計測値（各丁表右肩内法実寸、単位ミリメートル）を取っている。各グラフの下の表に計測値を示したが、×印はかすれなどによる計測不能箇所、空欄は愛鶴書院本による補填箇所である。

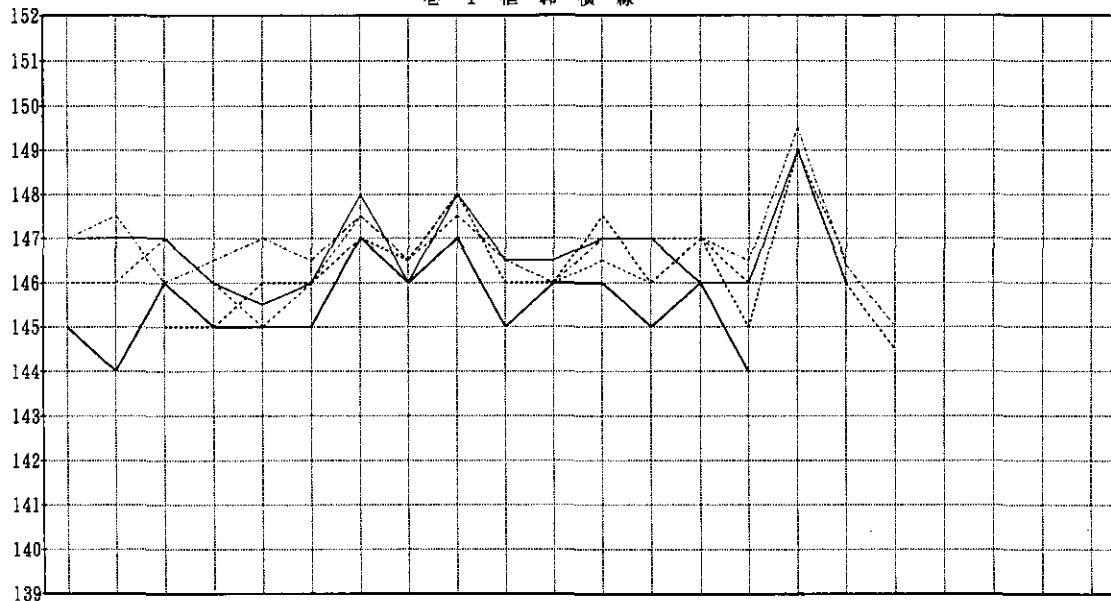
卷 1 框 郭 縦 線



	1丁	2丁	3丁	4丁	5丁	6丁	7丁	8丁	9丁	10丁	11丁	12丁	13丁	14丁	15丁	16丁	17丁	18丁
一 大東急本	195	196	194	194	194	194	194.5	194	194.5	193	194	193	192	194	194.5	195	194	194
一 篠亭本	194	195	193	194	193	194	194	193	194	193	193	193	192	194	194		195	
一 天理本	194	192	191	191	190	192	191	191	191	190.5	191	190	191	191	191	191	192	193
一 早大本甲	194	192.5	191	191	191	192	191	192	192	190	191	190	189	191.5	191	192	191.5	193
一 国会本	194	193	191	191	191.5	192	190	190	192	190	190.5	190	189.5	191	191	191	191	193

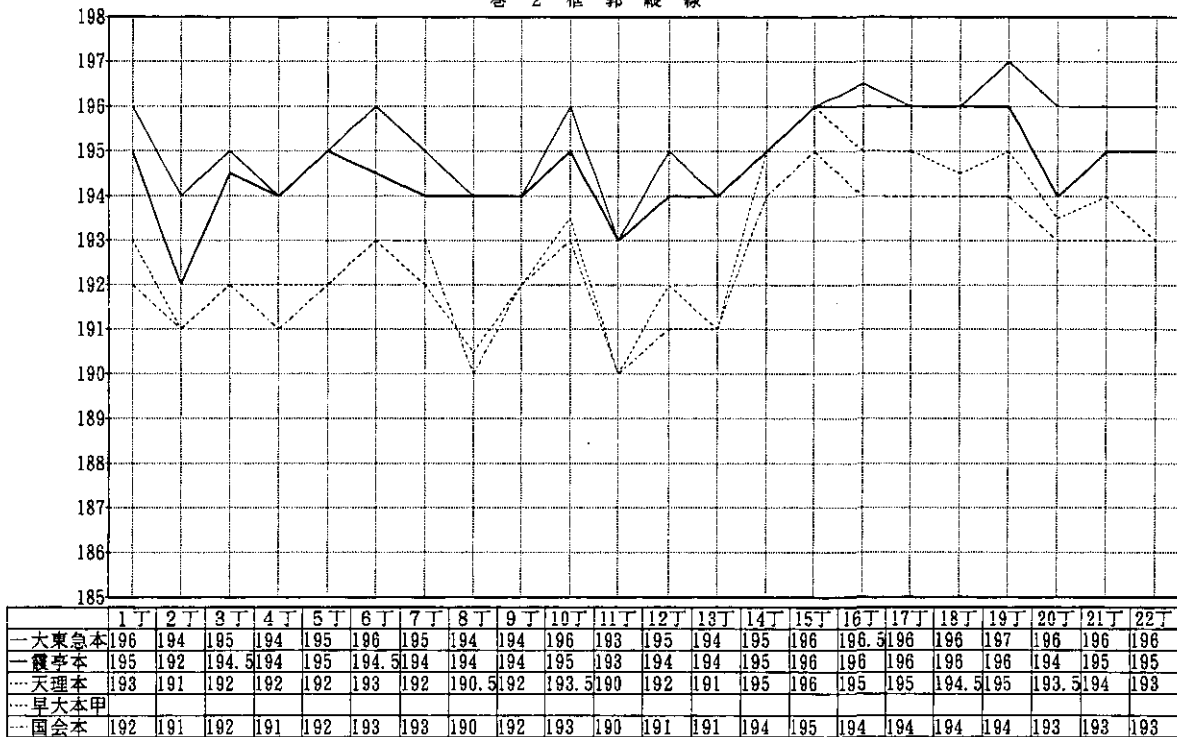
(4)

巻 1 框 郭 横 線



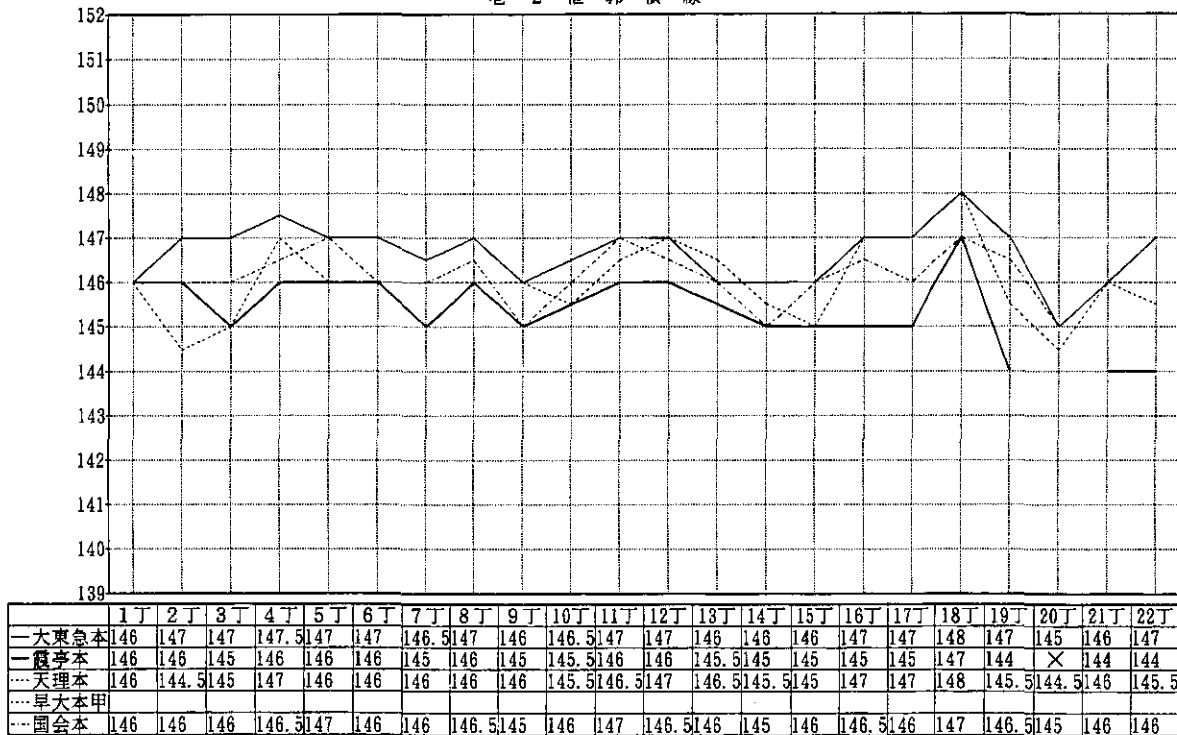
	1丁	2丁	3丁	4丁	5丁	6丁	7丁	8丁	9丁	10丁	11丁	12丁	13丁	14丁	15丁	16丁	17丁	18丁			
一 大東急本	147	147	147	146	145.5	146	148	146	148	146.5	146.5	147	147	146	146	149	146	×			
一 霞亭本	145	144	146	145	145	145	147	146	147	145	146	146	145	146	144		144				
… 天理本	146	146	147	146	145	146	147.5	146.5	147.5	146.5	146	146.5	146	147	146	149	146.5	×			
… 早大本甲	146		145	145	146	146	147	146.5	148	146	146	147.5	146	147	145	149	146	144.5			
… 国会本	147	147.5	146	146.5	147	146.5	147.5	146.5	148	146.5	146	147	147	147	146.5	149.5	146.4	145			

卷 2 框郭縦線

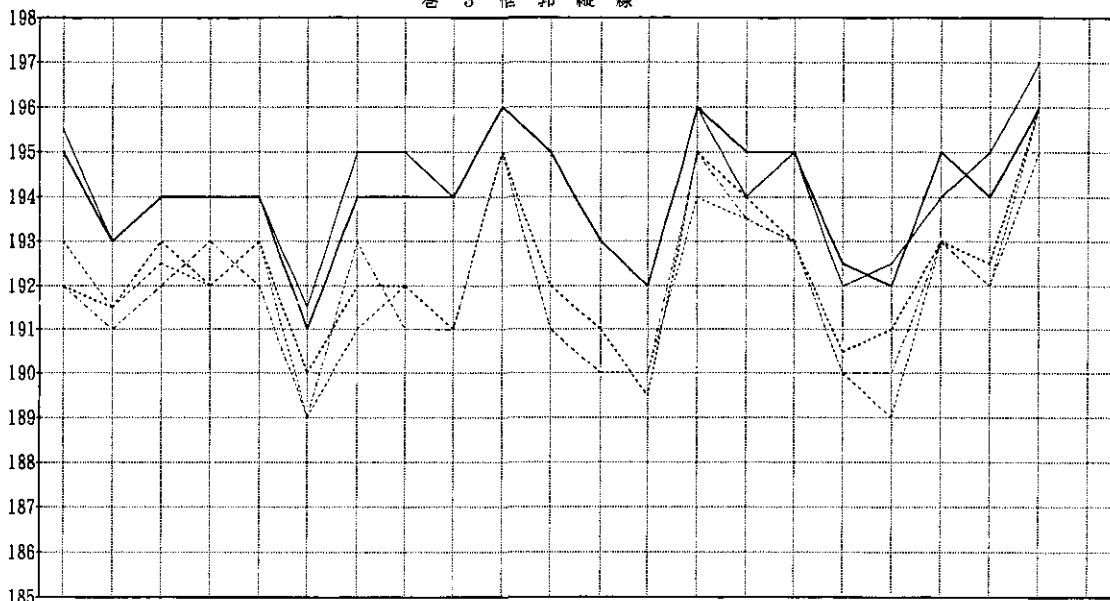


(九)

巻 2 框 郭 横 線

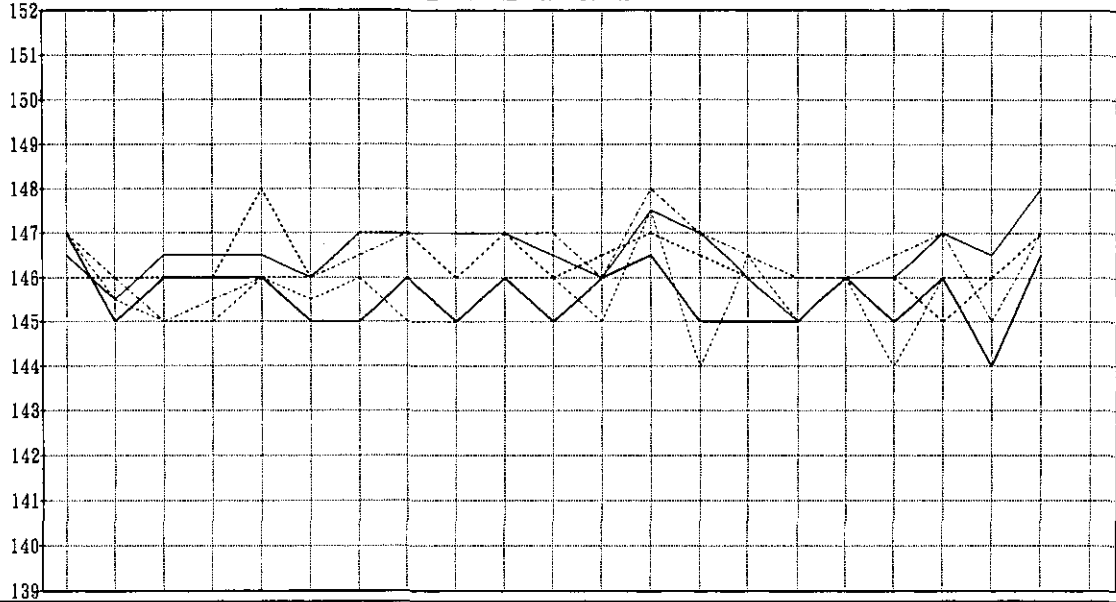


卷3 榎郭縦線



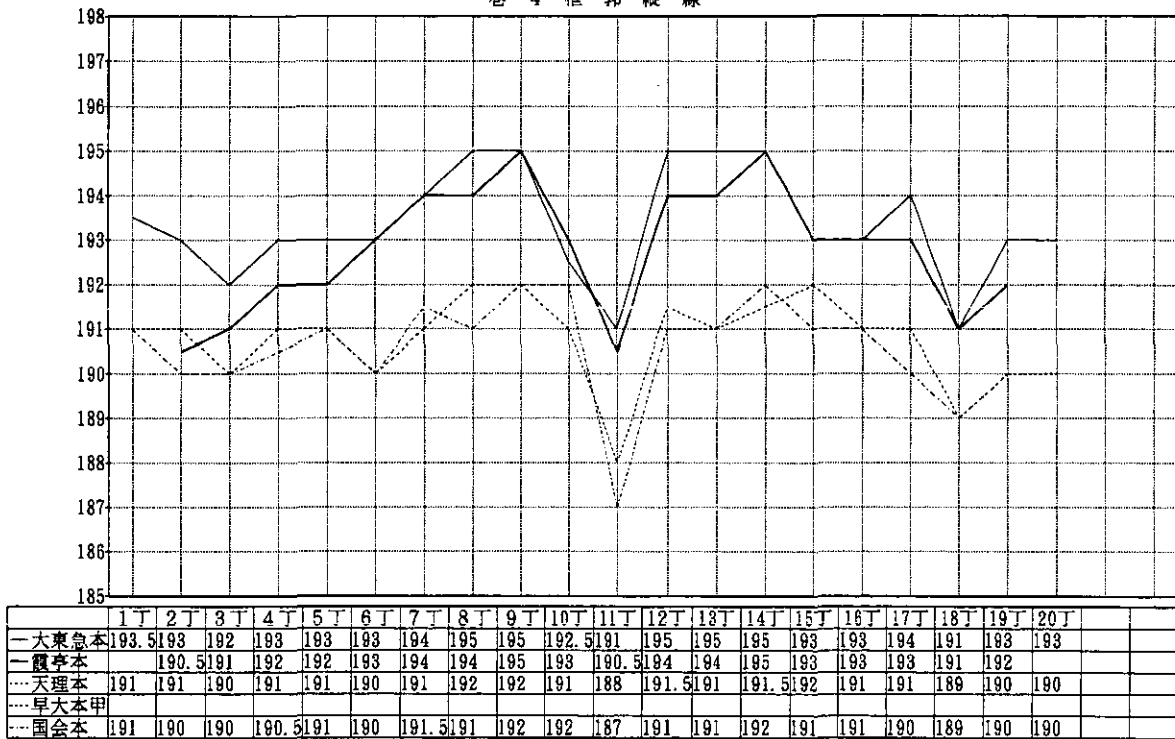
	1丁	2丁	3丁	4丁	5丁	6丁	7丁	8丁	9丁	10丁	11丁	12丁	13丁	14丁	15丁	16丁	17丁	18丁	19丁	20丁	21丁
—大東急本	195.5	193	194	194	194	191.5	195	195	194	196	195	193	192	196	194	195	192	192.5	194	195	197
---霞亭本	195	193	194	194	194	191	194	194	194	196	195	193	192	196	195	195	192.5	192	195	194	196
...天理本	193	191.5	192.5	192	193	189	191	192	191	195	191	190	190	194	193.5	193	190	189	193	192	196
---早大本甲	192	191.5	193	192	193	190	192	192	191	195	192	191	189.5	195	194	193	190.5	191	193	192.5	196
---国会本	192	191	192	193	192	189	193	191	191	195	191	190	190	195	193.5	193	190	190	193	192	195

卷 3 框 郭 横 線

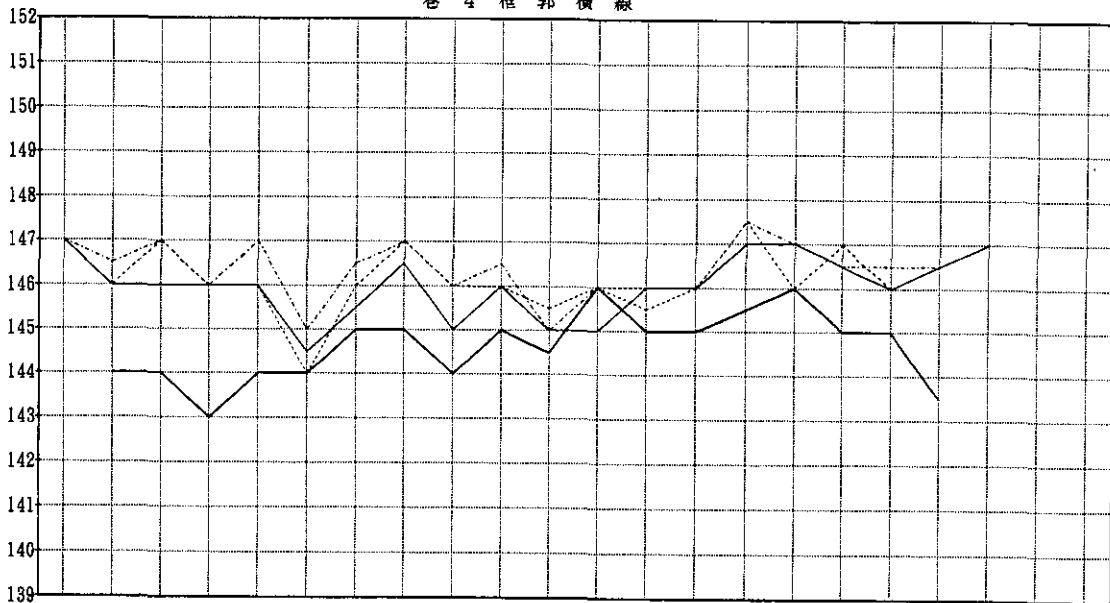


	1丁	2丁	3丁	4丁	5丁	6丁	7丁	8丁	9丁	10丁	11丁	12丁	13丁	14丁	15丁	16丁	17丁	18丁	19丁	20丁	21丁
—大東急本	146.5	145.5	146.5	146.5	146.5	146	147	147	147	147	146.5	146	147.5	147	146	145	146	146	147	146.5	148
—霧亭本	147	145	146	146	146	145	145	146	145	146	145	146	146.5	145	145	145	146	145	146	144	146.5
…天理本	147	145.5	145	145	148	145.5	146	145	145	146	146	145	147.5	144	146.5	145	146	144	146	146	147
…早大本甲	146	146	146	146	148	146	147	147	146	147	146	146.5	147	146.5	146	146	146	146	145	146	147
…国会本	147	146	145	145.5	146	146	146.5	147	147	147	146	148	147	146.5	146	146	146	146.5	147	145	147

卷 4 框 郭 縦 線

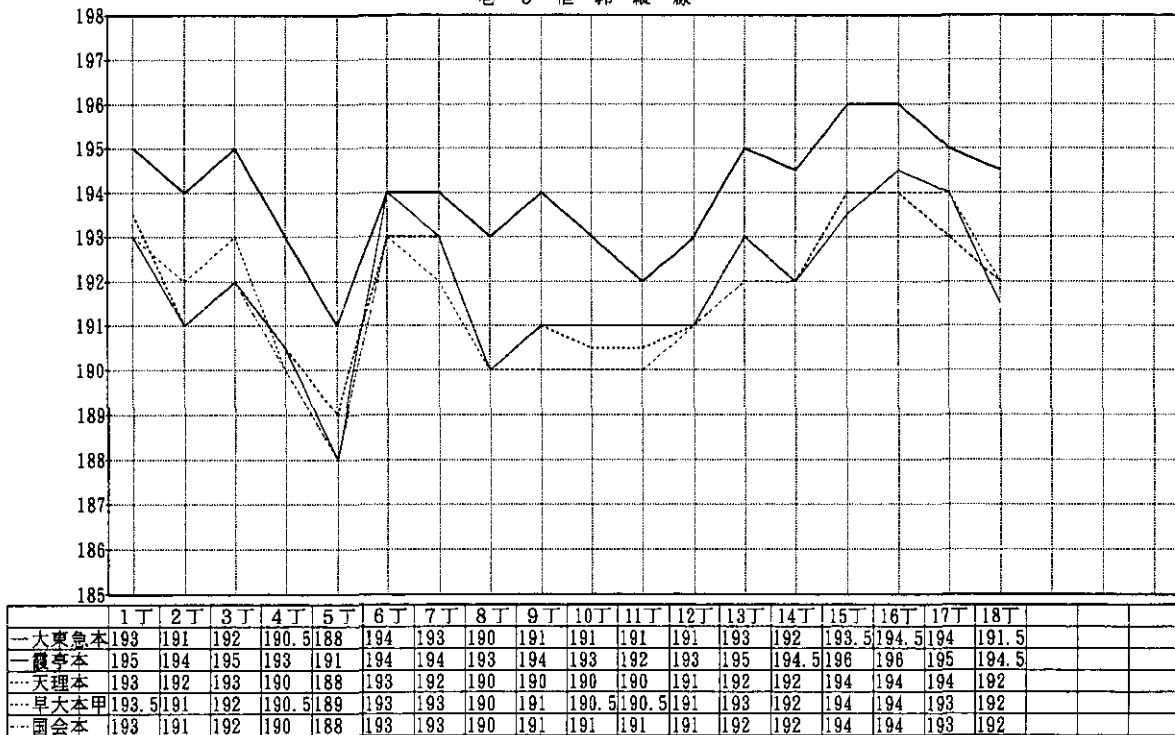


巻 4 框 郭 横 線



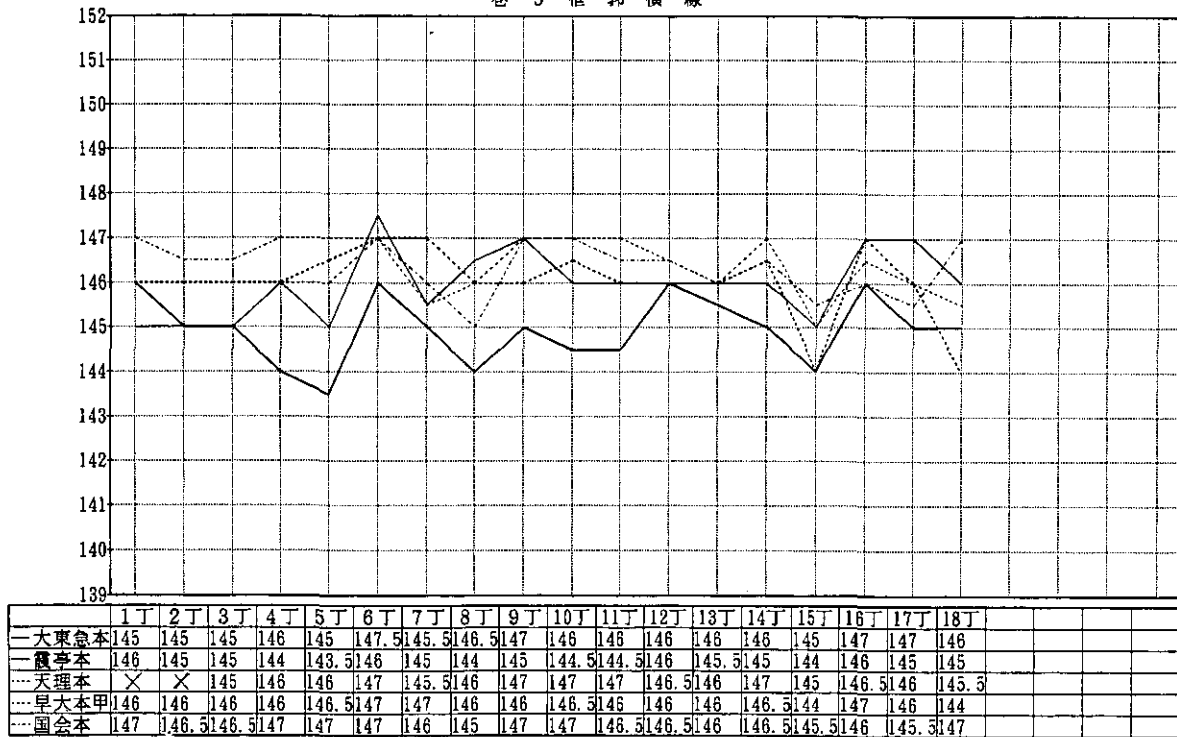
	1丁	2丁	3丁	4丁	5丁	6丁	7丁	8丁	9丁	10丁	11丁	12丁	13丁	14丁	15丁	16丁	17丁	18丁	19丁	20丁
一 大東急本	147	146	146	145	145	144.5	145.5	146.5	145	146	145	145	146	146	147	147	146.5	146	146.5	147
一 鶴亭本		144	144	143	144	144	145	145	144	145	144.5	146	145	145	145.5	146	145	145	143.5	
一 大塚本	147	146	147	146	146	144	146	147	146	146	145.5	146	145.5	146	147.5	146	147	146	146.5	147
一 早大本甲																				
一 国会本	147	146.5	147	146	147	145	146.5	147	146	146.5	145	146	146	146	147.5	147	146.5	146.5	146.5	147

卷5 框郭縦線



(15)

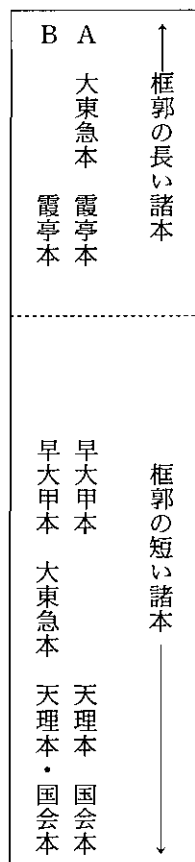
巻 5 框 郭 横 線



計測誤差や、紙の伸縮などを考慮すべきであることは言うまでもないが、右のグラフから諸本版面のおおよその傾向は読み取ることができよう。まず版木の伸縮方向が木目に左右されるのは当然として、『五人女』の版木は或る程度規則性を持って縦方向に伸縮している。次に框郭縦線のグラフに見る諸本のカーブや框郭横線のグラフに見る霞亭本の動きなどから推して、各本共に同一巻内の取りまぜの可能性は殆ど無いことが確認される。即ち諸本は各巻を一単位と見做すことが可能なわけで、その性格は主として框郭縦線のグラフによって読み取ることができるのである。要点を箇条書きにすれば次のようになる。

- ① 卷一〜四（以下Aとする）と卷五（以下Bとする）とは性格が異なる。
- ② Aでは大東急本・霞亭本が長く、天理本・国会本はほぼ全丁に互ってそれよりも二〜三ミリ程短い。両者の差は歴然としている。

- ③ Aにおける大東急本と霞亭本との差は僅少である。
 - ④ Aにおける四本間の順位は長い方から、大東急本・霞亭本・天理本・国会本となる。
 - ⑤ Bでは、霞亭本が他の三本に較べてほぼ全丁に互って二〜三ミリ程長い。両者の差は明瞭である。
 - ⑥ Bにおける天理本・国会本・大東急本の三本の差は僅少である。天理本と国会本は同値と言ってよい。
 - ⑦ Bにおける四本間の順位は長い方から、霞亭本・大東急本・天理本・国会本の順になる。
 - ⑧ 卷一・三・五に早大甲本の数値を入れてみると、カーブの規則性がより明瞭になる。五本のカーブに注目すると、早大本の伸縮に規則性が感じられると共に、国会本の不規則性が際立って見えてくる。この傾向は框郭横線のグラフにおいても指摘できる。
- これらのことから、次のようにまとめることができる。



(一八)

以上、框郭縦寸法の計測結果を分析し、各巻を一単位とした時の諸本の性格を読み取った。次にこの計測結果を、版木欠損状況の調査結果と重ね合わせてみる。

石川氏解題では、版木欠損の状況から刊行の先後を、A（巻一〜四）では大東急本↓霞亭本↓天理本・国会本の順、B（巻五）では霞亭本↓大東急本↓国会本の順とされているが、異論は無い。二、三私見をつけ加えておきたい。具体的なデータは末尾の「参考」に譲ることとして、結論のみを挙げると、中之島本は霞亭本及び大東急本Aに極めて近く、初印本グループに位置し、天理本は摺りの異なる巻五も含めて国会本よりも僅かに早いと考えられる。早大本（甲・乙）はほぼ天理本と初印本グループとの間に位置し、国会本は後印本と見做すことができる。

欠損状況によつて推定される右の刊行先後は、先に述べた框郭縦線の計測から導かれた「長さの順位」とほぼ正確に呼応する。即ち、框郭縦線の長短と版木欠損状況の優劣は、『五人女』の場合には多少の誤差を越えて重なり合うのである。そうであれば、框郭寸法の差——先のグラフで言えば諸本間の差——を刊行時期の差に置き換えることが可能となろう。

勿論、框郭寸法の長短は必ずしも常に刊行の先後と並行するものではない。自然枯燥や摺りの良し悪しの影響を別にしても、印刷時の諸条件（方法の違いや板の反り等々）で寸法が変化する上、疲労した版木では、

いくつかの要因が重なって伸縮の割合が不規則になる。紙についても、印刷時の乾湿、紙質の違い、本の保存状態等によって長短の差を生ずることがある。しかしながら、『五人女』の場合はこのような要因が全体としては決定的なものではなく、框郭縦線の長短から刊行の先後を判断してもよいと思われるのである。

以上のことを踏まえ、『五人女』諸本の刊行先後及び性格を再度確認しておく。先にも見たように框郭縦線の長い諸本が初印であり、二都版（霞亭本）がそれに該当することは動かない。また、大東急本はA（巻一〜四）が框郭縦線の長い初印本、B（巻五）が短いやや後の摺りという取り合わせ本であることも明らかであろう。中之島本は速断はできないが、二都版である可能性が高い。つまり、霞亭本・中之島本・大東急本の三本は二都版の性格が色濃く、それぞれ改装合綴、愛鶴書院本による補填、零本との取り合わせといった手が加えられた初印本グループと推定できよう。取り合わせ本をも含めて敢えて言えば、所在が確認できる諸本は実質的には二都版三本、単独版五本（大英博物館本を含める）である可能性が高いことになる。なお未見の平井氏蔵本については、今後の調査に俟つこととしたい。

四

最後に、これ迄の調査を通じて気付いた点を二、三列記しておきたい。

前節に計測結果を掲出しておいた「框郭横線」の伸縮状況について言えば、各本の傾向は或る程度伺えるが、通例にもれず伸縮の度合は小さい。強いて言えば、全体に国会本・大東急本Aは長めであり、霞亭本は短めである。刷りの先後と版面横方向の伸縮とは必ずしも一致しないと考えているが、『五人女』にもそれがあてはまる。横方向の伸縮は、版木の枯燥よりも紙質や印刷時の紙の乾湿等により影響されるように思われる。

天理本は、巻一〜四と巻五との取り合わせ本であることが早くから紹介されているが、框郭寸法・欠損状況の調査では、両者に顕著な違いは見出されなかつた。摺りの時期は大きく違わないと思われる。

表紙については二節に示した通りである。このうち二都版の原表紙については水谷不倒氏の模刻紹介（紺色・左肩題簽）に拠る以外無く、後考を俟ちたい。単独版表紙については、取り合わせ本の大東急本・天理本を除く三本（早大甲乙二本と国会本）に共通して見られる「毘沙門格子巻龍紋朽葉色（乃至白色）¹⁰」、中央上部題簽」をひとまず代表的表紙として捉えておきたい。

二都版から江戸の「清兵衛店」が削られた時期については不明であるが、大東急本の性格が明らかになつたことで、従来言われてきた時期よりもいくらか下ることになる。単独版移行の時期を推定する手掛りとして、二都版と単独版との距離を埋める資料の出現が俟たれるところである。

【参考】

1 欠損箇所及び句点の異同箇所。

欠損の程度は少い方から順に「○△×」の記号で示す。霞亭本・大東急本・国会本の関係を示す好例については石川氏解題に十分な説明があるので、ここでは天理本・早大本・中之島本を加えた六本の大よその欠損状況を見るべく、重複しない範囲で代表的な例を掲げる。なお*は青山氏解題で触れているものであるが、補刻の可能性も考えられよう。

十一表 6	五・ 六表 3	四・ 八表 7	二十一表 8	*三・ 五表 2	十七ウ 5	二・十一裏 8	一・ 九裏 10	卷・丁 行
								該当箇所(●印)
×	△	○	○	○	○	○	○	大東急
○	○	○	○	○	○	○	○	霞亭
○	○	○	○	○		○	△	中之島
○	○	/	○	●	/	/	○	早大(甲)
△	△	×	△	●	△	×	×	天理
×	×	×	×	●	×	×	×	国会

(111)

2 卷一 6 丁裏の欠損状況

大東急本

よなぞらしてそぞろ
 傳命菴つらむ改
 のそくは福乃庵と
 てもおしよそくよ
 わりておれ漢つけ
 高名坊傳とぬとま
 およ小更明之おの
 こくし松山おれつお
 いせとてかたも皆
 氣とてらひ命とま
 て謙とてあ一筆のわ

霞亭本

よなぞらしてそぞろ
 傳命菴つらむ改
 のそくは福乃庵と
 てもおしよそくよ
 わりておれ漢つけ
 高名坊傳とぬとま
 およ小更明之おの
 こくし松山おれつお
 いせとてかたも皆
 氣とてらひ命とま
 て謙とてあ一筆のわ

早大甲本

よなぞらしてそぞろ
 傳命菴つらむ改
 のそくは福乃庵と
 てもおしよそくよ
 わりておれ漢つけ
 高名坊傳とぬとま
 およ小更明之おの
 こくし松山おれつお
 いせとてかたも皆
 氣とてらひ命とま
 て謙とてあ一筆のわ

(一一一)

- 〔注〕
- 1 他に水谷不倒氏が『西鶴本』で紹介された紺色表紙・題簽左肩の一本があるが所在不明。
 - 2 単独版には前述の五本の他に、K・B・ガードナー氏が『ビブリア』四十五号で紹介された大英博物館蔵本（未見）、及び『定本西鶴全集 好色五人女』の底本（所在不明）が確認できる。後者は挿絵部分の書き入れに特徴が見られる。
 - 3 『西鶴の書誌学的研究』昭和十六年七月。
 - 4 『補西鶴年譜考證』昭和五十八年十一月。
 - 5 前掲書。青山氏解題。
 - 6 前掲書。石川氏解題。
 - 7 なお框郭横線については、本稿四節で触れる。
 - 8 版面より明らかである。数字を挙げると、全巻を通じて七十箇所の諸本異同箇所で、濁点など六箇所を除く六十箇所において国会本の欠損の度合が大きい。
 - 9 同版本の框郭縦線（計測位置が固定できれば字高）の寸法は、諸本間に大差が出るケースもあり、印刷条件が大きく異なる場合には後刷りの方が長くなる実例さえある。本稿で試みた方法の有効性は、個々に検討する余地がある。但し取りませ本の可能性を検討する手段としては妥当性が認められる。
 - 10 早大乙本は薄縹色と認められるが汚損・疲れが甚しく、もとの色が判別しにくい。退色や汚損などを考慮し、早大甲乙二本と国会本の表紙を同系としておく。
 - 11 巻籠紋の位置の異同を考慮しなければ、古典文庫2『好色五人女』掲載の原表紙（但し本文は異版）や、未見の平井氏蔵本もほぼこれに該当する。

〔付記〕

本稿は、一九九四年度北星学園大学特別研究費によるものである。

本稿を成すにあたり、図版掲載を許可下さいました各関係図書館・文庫、並びに御教示・御助言を賜りました大橋正叔氏・石川了氏に厚くお礼申し上げます。

A Method for Analyzing the Original Versions of “Kōshoku Gonin Onna”

Terue MIYAZAWA

This paper proposes a new method for analyzing the authenticity and printing origins of the Edo novel, “Kōshoku Gonin Onna.” By comparing the printing characteristics and “Kyōkaku” measurements of one version printed in Ōsaka and another version published in Edo and Ōsaka, a chronological record was established. The probability that two versions were mixed will be discussed.